

トレオ 新ピン柱脚

(目的) 自由設計型のトレオでは、基礎システム「QFU」、もしくは、「QFP」を構造躯体に取り込むことで、在来工法との競争力が発揮される。

これらの基礎梁のない基礎システムと組み合わせる場合、柱脚は、回転剛性が小さいいわゆる“ピン柱脚”にする必要がある。従来の「皿ばね形式」、または、「支承板形式」のピン柱脚に加え、第三のピン柱脚として「板ばね形式」を開発した。

従来の2タイプは露出形式であったが、この「板ばね形式」では、ベースプレートレベルを床レベルより下げ、柱脚廻りを土間に埋め込む形式とするなど、物件の特性に応じて、これら3タイプの柱脚形式を使い分け、基礎システムの対応力を拡大させることを目的としている。

(特徴) 「板ばね形式」柱脚は、センクシア(株)の新商品「PIN ベース工法」の考え方に基づいている。この「板ばね形式」柱脚と基礎システム「QFU」、もしくは、「QFP」とを組み合わせるために、部分的に当社オリジナル仕様に改良し標準化した。

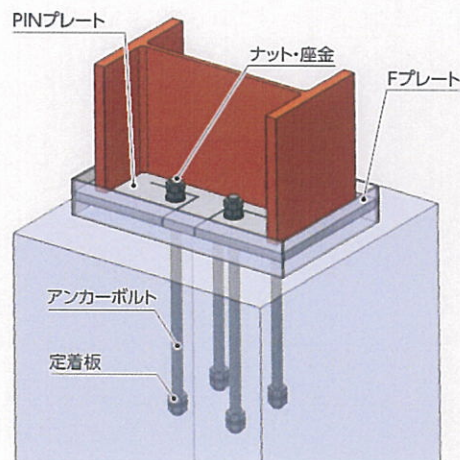
「PIN ベース」では、PIN プレートのアンカーボルト周りにスリットを切ることによって PIN プレート全体をバネとし、さらに、中心鋼板により PIN プレートを浮かせて隙間を設け、回転剛性を低く抑える機構としている。

PIN プレートと土間とは薄鋼板にて縁を切ることによって、柱脚廻り全体を土間に埋め込むことができる。

また、アンカーフレームは、これまでの基礎システム「QFU」、もしくは、「QFP」の従来型の形式と組み合わせ、施工性を向上させる。

(効果) 柱脚システムのバリエーションの充実が出来た。

(採用目標) 年間30棟での採用を目指す。

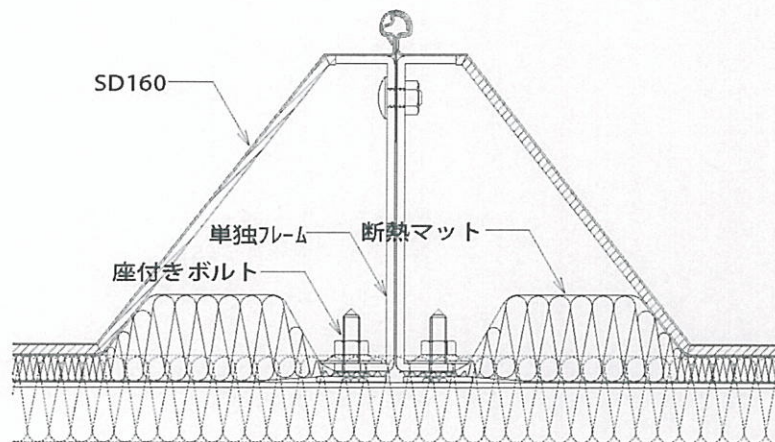


PIN ベース工法 (センクシア(株)提供)

<以上>

トレオ SD160 簡易断熱屋根工法(マット工法)

- (目的) 外装材の断熱仕様の拡大を進める中、トレオ(自由設計型システム建築)の屋根システムであるSD160についても、ティオ(規格型システム建築)のSD ルーフと共通のラインアップを保持することを目的として、SD160 屋根シリーズの中に、シングル葺きと二重葺き折板の中間的な断熱性能を有する仕様を開発するもの。
- (特徴) SD ルーフにて実績のあるマット工法と同じ断熱材「断熱マット」にて、断熱性能を確保し、簡易断熱仕様とした。
母屋の上に「断熱マット」を直に配置し、タイトフレームにて押え付ける。このタイトフレームの固定については、施工性の向上とコストダウンを図るため、ボルト接合としている。
また、「断熱マット」の垂れを防止するために、断熱マット受け下地を鉄骨工事にて配置するよう標準化した。
- (効果) 二重折板の構成材料の内、下葺き材、断熱金具が減らせるため、従来タイプの二重折板と比べて10%以上のコストダウンと工期短縮が期待できる。
- (採用目標) 年間15棟での採用を目指す。



SD160 簡易断熱屋根工法

<以上>